

中国からマスクのプレゼント

中国の西安市新世紀境外就業トレーニングセンターの周鳴燕^{しゅうめいえい}さんは3月6日、「新型コロナウイルスの発生で、日本のマスクが足りないと聞きました。少しでもお役に立てば」と、マスクが届きました。

同トレーニングセンターは、外国人技能研修性を教育し、日本などの国に送り出す役割を担っています。達生堂グループの城西病院やヒューマン・ハウス、すばるには、このセンターで日本語などを学び、西安市の送り出し機関を通じて外国人技能実習生10人が勉強に励んでいます。

周さんは、このセンターで長く日本語教師を務め、現在は西安市で高齢者施設を作るためのプロジェクトの一員としても活躍しています。

城西病院には2018年7月に訪れたほか、2019年12月にも訪問しています。現在、ヒューマン・ハウスとすばる、城西病院で実習を行っている中国人の10人は、周さんから日本語を学んだほか、日本での生活のアドバイスを受れたり、さまざまな相談事にも乗り、まさにお姉さんのような立場でも接してきたといいます。

多田正毅理事長は、今回マスクを贈ってくれたことに対し、「中国でもマスクを手に入れるのが大変だったと聞いていました。その中で、マスクを贈ってくれた、その気持ちがうれしい」と話していました。

2020年3月12日

